

『風と花』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

地域とのつながりを図る！

## 校内カフェ「Café Bell」

### やまびこ支援学校



やまびこ支援学校（小嶋加津美校長）の高等部の生徒達は、地域社会とのつながりを持ち、社会に貢献できることを目指して様々な学習に取り組んでいます。「職業Ⅱ」の授業では、「農園班」「工芸班」「サービス班」の3つの班が1年生から3年生までの縦割り班で構成され、各班の特色を生かした取り組みを行っています。

「サービス班」は、校内にてカフェ「Café Bell」の運営に取り組んでいます。生徒達は、カフェの運営を通して、コミュニケーション力を高めることや状況や相手に応じた適切な関わり方を身に付け、自ら考え判断し

て行動する力を育成します。また、「Café Bell」を学校所在地の大月市桂台地区の住民を対象に開放することによって、地域社会とのつながりを図っています。

メニューは飲み物とお菓子がセットになっていて、料金は授業という事で100円！お菓子はワッフル・ラスク・カップケーキの中から自由に選べ、何を選んでも飲み物に非常に良く合います。テイクアウトも可能です。バックグラウンドミュージックが流れる中で、お客さんたちはくつろぎながら話に花を咲かせていました。夫婦で来る方や友達数名と来る方など、1日平均30～40名の来店があるそうです。「サービス班」の9人の生徒が、接客や会計を行います。みんなが元気に笑顔で接客していて、こちらの気持ちも明るくなりました。



また、店内には農園班が栽培した野菜や工芸班が作成した製品なども販売されています。サービス班だけでなく、農園班・工芸班も協力して、「職業Ⅱ」の授業全体で「Café Bell」の運営に携わっていました。利用者の意見です。

「生徒達が一生懸命動いたり、声かけをしてくれたりする姿に元気をもらえました。お年寄りの方が、後から来た小さい子に声かけをして、地域の人との憩いの場になっていると感じました。これからも続けて

頑張ってください」



# 富士吉田市ふるさと発見ワークショップ

## 「富士吉田市のくらし方・働き方」

at 富士吉田市内5中学校



9月20日（水）に、富士吉田市内の中学校5校にて、「富士吉田市ふるさと発見ワークショップ」が開催されました。進路決定前の中学3年生が、富士吉田市に関わりのある多種多様な職業で活躍する若者から職業観や人生観等を聴き、自らの生き方について考えを深めることを目的としています。当日は合計19職種にわたる方々が中学3年生の生徒達に「私にとっての仕事とは?」「みんなへのメッセージ」などのテーマを中心に語りかけてくれました。

講師の堀内洋平さんは、以前東京に住んでいた経験から、富士吉田市は「自然と街が共存する素晴らしい所」だと感じているそうです。また、古くなった洋服を染め直す後染め・後加工を専門とする染色加工業者としてのご自身の仕事を紹介し、自分にとって仕事とは「人と人がつながって、さらに新しいアイデアが繋がるワクワク感」「何もないところから新しいものを作る楽しみ」が得られるものだと話していました。

天野智佳さんは、高校3年生の時に東京の高校へ転校。さらにアメリカの大学に進学し、大学在学中に訪れたインドでヨガに魅了され、現在は市内でヨガインストラクターとして働いています。一度地元を離れたからこそわかる地元の良さを話していました。また、自分にとって仕事とは「ありのままにいられる『いやしの時間』であり、人生における考え方を教えてくれる」と話していました。最後には生徒たちとヨガの実演も！なかなか慣れない中での体験だったので「難しい!」という声を上げながらも、生徒たちは楽しそうに取り組んでいました。

生徒の一人は、「今まで自分の将来についてあまり考えたことがなく、漠然としたところがあった。今回のワークショップを通じて、身近なところにも様々な職業があって、自分の未来が広がっていく感じがしました」と感想を述べていました。

普段生徒達が接する大人は学校の先生か親など非常に限られています。そのため、生徒達の地元の仕事に関する知識は決して深いものであるとはいえません。今回のようなワークショップは、地元どんな仕事があるのか、どんな気持ちで働いているのかを知る良い機会となりました。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 教育支援スタッフ 0554-45-7841

# 小・高連携キャリア教育！！

## 小学生が高校の授業を見学！

### 吉田西小学校&富士北稜高校

10月23日（月）、富士北稜高校（塩入由里校長）にて吉田西小学校（堀内千登勢校長）との連携事業が行われました。当日は、吉田西小学校6年生53名が富士北稜高校を訪問し、高校生の案内で様々な授業の見学をしました。

ハードウェア技術（電気情報系列）の授業では、ドローン制御のプログラミングの授業を見学しました。高校生が「180度回転する」「450cm前進する」「50cm左に移動」などの指示をプログラミング言語を使ってパソコンに入力。児童たちはその様子を不思議そうに見ています。スタートボタンを押し、指



示通りにドローンが動いた時は大歓声！動かなかった時は、大きなため息。喜びや驚き、さらに悔しさのあふれた非常に活気ある授業でした。担当の先生からは、「プログラミングっていうのは、トライ＆エラー。とにかくやってみて、ああでもない、こうでもない、色々考えることが大切。逆上がりと同じで、たくさん失敗してみても出来るようになるものです。小学生のみんなも、とにかくいろいろと挑戦してみてください」とのアドバイスがありました。

自動車整備（機械テクノロジー系列）の授業では、2台の本物の車を分解して、お互いに部品を入れ替える作業とCNC（コンピューター数値制御）旋盤で鉄を思い通りの形に加工する作業を見学しました。車のボンネットなどが取り外される様子に、児童たちはびっくり！エンジンルームの中を、興味深そうにのぞき込んでいました。また、CNC旋盤の説明を聞いている途中に、「3Dプリンターだ！」との声。3Dプリンターが積層していく作り方をするのに対して、CNC旋盤は素材（鉄等）を削っていく加工方法を用います。そのため全く同じだというわけではありませんが、その2つを結びつけた発想に担当の先生も驚いていました。



最後は全員視聴覚室に集まり、富士北稜高校生への質問タイム。「高校生活で大変なこと・楽しいことは？」「小学校で学んだ勉強は高校でも使いますか？」「小学校の時の夢と今の夢は同じですか？」「なぜ富士北稜高校を選んだのですか？」等の質問ができました。高校生たちは、小学生たちにもわかりやすいようにゆっくりと優しい言葉使いで答えていました。

小学生の児童たちが、「高校」という未知の場所で実際に何を勉強するのかイメージが持てる機会になったと思います。将来の高校生たちが、進学先でミスマッチなく幸せな学校生活を過ごしていることを期待しています。

# 明日の風 第3・4回アスリート実技講習会

今後の予定 2月10日(土)  
3月 9日(土)

9月16日(土)、大月市営陸上競技場で第3回アスリート実技講習会が開催されました。9月の中旬の開催でしたが、まだ気温や湿度は高く、熱中症対策を十分に講じたなかでの実施となりました。

当日は、北都留地区の児童生徒42名とスタッフ11名での開催となりました。最初に全体でウォーミングアップを行い、身体をほぐした後に、グループに分かれて「走り幅跳び」「走り高跳び」「ジャベリックボール投げ」「100m走」「60mハードル」「長距離走」の6種目を行いました。

走り幅跳びでは、踏切板に足を合わせるのが難しそう。どうしても合わせようとするとう踏切板の直前で小股走りになる児童も。スタッフの先生から「小股走りになるとスピードが出ないよ。踏切板直前でスピードが落ちないように、しっかりと腕を振って踏切めがけて駆け抜けよう！」とのアドバイスが。何度も何度も繰り返すうちに、どんどん記録も伸びていきました。

最後に行われたリレーでは、暑さ対策のためいつもよりも距離を短くして実施しました。距離が短くなったため各チームの差があまりつかず、いつも以上に盛り上がる結果となりました。大きな歓声とたくさんの笑顔がはじけた一日となりました。



11月3日(金)、同じく大月市営陸上競技場で第4回アスリート実技講習会が開催されました。今回は大月市陸上競技協会の方々の協力を得ながら、各種目の記録の計測を行いました。児童生徒46名が、さわやかな秋空の下、様々な種目で自己最高記録を目指しました。

前回9月16日(土)に行われた第3回の実技講習会でしっかりと各種目の基本を身に付けた児童生徒たち。全体でのウォーミングアップの後、「走り幅跳び」「走り高跳び」「ジャベリックボール投げ」「100m走」「60mハードル」「長距離走」の6種目の中から、複数の希望の種目の記録測定に挑戦しました。

ジャベリックボール投げでは、野球のボール投げの投法と陸上競技のやり投げの投法の両方で挑戦してみる子どももいました。どちらの投げ方でも、ジャベリックボールが「ヒュルヒュルヒュル〜」ときれいな音を立てながらまっすぐに飛んでいました。100m走や60mハードルでは、スターティングブロックも使いながらの測定です。「前足はどちらか」「踏切板の位置はどこが良いのか」などを何度も確認しながら測定しました。小学校低学年の子どもには、やはり100mは長い！時には苦しそうな表情を浮かべながらも走りきりましたが、走りきった後は充実感に満ちた顔になっていました。

多くの子どもたちが自己記録を更新していました。中には走り高跳びで8センチも記録を伸ばした子どももいました。どんどん成長していく子どもたちに頼もしさを感じた一日となりました。

